

# 高知県教育委員会 会議録

平成26年度第12回教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

## (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年8月29日(金) 18:30

閉会 平成26年8月29日(金) 21:15

## (2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児
欠席委員	委員	久松 朋水
	委員	八田 章光

## (3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	参事兼教職員・福利課長	彼末 一明
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	高等学校課課長補佐	竹崎 実
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

## (4) 教育委員長の依頼により出席した者

高知南中学校・高等学校校関係者 保護者代表(4名)  
校友会代表(3名)  
進取会代表(3名)  
国際教育振興会代表(3名)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

本日は今年度、第12回目の協議会となります。

高知南中学校・高等学校の関係者の皆様におかれましては、4回目の協議会ということで、大変ご多用中のところ、ご出席いただきましたことに心より感謝申し上げます。また、本来、この会は8月5日に開催を予定しておりましたが、台風接近のため日程を変更して本日の開催となりました。皆様には日程の調整等ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。

前回、7月22日の協議会の際には、皆様からいただきましたご意見をもとに、当初提案させていただきました内容とは別の統合の仕方についての案を提案させていただきました他、統合に至るまでの間の教育環境の充実策についてのご説明をさせていただいたところがございます。これに関しまして、皆様の校名、校歌等に対する強い思いもお聞かせいただきましたし、中学生と高校生が一度に統合する方法を検討してほしいとのご意見もいただきました。

本日は、まず、前回の協議会でいただいたこれらのご意見等について、県教育委員会として検討いたしました内容についてご説明させていただいた後に、皆様からご意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○高知南中学校・高等学校関係者 保護者代表との意見交換

保護者代表	<p>先日、高知西高校の関係者に対する協議会を傍聴した。その中で、保護者代表の方が言っていたが、我々の後ろにも同じように1万人以上という卒業生、在校生、保護者の皆さんがおり、意見が届いているため、私の方も同様に、言わなくてはいけないことがあるのでご了承いただきたい。</p> <p>補足説明資料の1について、高知南高校についての理解もしていただきたいところがある。「現在の高知南中・高校」の語学力の育成というところにある、習熟度別授業は、高知西高校の欄に書いている、少人数指導による英語教育と全く同じことを現在取り組んでいる。同じように、スピーチやディベートを実施し、各種大会で活躍もしているので、それも書いていただければと思う。それから、平成25年度の英検2級以上取得者は3名とあるが、実際調べたところ8名であったし、準2級もまだいる。まして中学校の段階で3級を取得しているという状況にあるので、この資料を今後出すのであれば訂正していただきたい。同じように国際交流についても、姉妹校への留学も行っているし、平成23年のニュージーランド、平成24年・25年度のメキシコでの語学研修も行っている。アメリカのところは直っているが、その他についてもご理解いた</p>
-------	--

できればと思う。

今、お手元に、資料を配らせていただいた。高知西高校の校友会の方がこの前資料を配ったときは、吹奏楽部のことを言っていたが、我々も、スポーツで言えばなぎなたは県外でもトップクラスで、全国大会に常に出場しており、優勝もしているということ知っていただきたいので、少しアピールさせていただく。

端的に言うが、今回出された案の中で、個人として、会長として、非常に懸念に思っているところが一つだけある。まず、右上にある、教育委員会の方から出されてきた別案は非常に納得しがたいと思われる。何度も言っているが、高校及び中学校で、多い学年で2年間、少ない学年でも1年間、後輩がいないという学校生活がある。それから、新たに併設される中学校でも、設置当初に上級生がいないことは非常に懸念される。その理由として、まず高知南中学校における、2年間後輩がいないところについては、クラブ活動への日常的な支障が非常に大きい。これまで、県の教育委員、前教育長も含めて、クラブ活動、学校生活はある程度の人数規模があつてこそできるのではないかという話をしてきた。私達が最初に出した全体的に人数を減らしてはどうかという案について、それは非常に困難であり、ある程度の規模の人数が必要であるという見解を今まで聞いて来た記憶があるのでこのことが懸念される。

もう一つ、最後の卒業生は大きな校舎で、1学年だけの少人数で生活しなくてはいけないということである。我々の中にも、高校が無くなる経験をした保護者が何人もおり、高校が無くなるということが非常に辛いということを訴えている。それから先ほどの新しい中学校で2年間上級生がいないということについては、その下矢印のところにあるようにクラブ活動への取組が困難である。また、中学校生活で課題がでてきたときに、前例等を参考にし、解決に導くことが非常に困難である。このことは校友会、保護者、進取会、国際教育振興会も含め、高知南中学校ができたときに経験をしている。当初、160名で中学校がスタートしたときに非常に大きい問題があつた。素晴らしい先生が来たと思っているが、そういう中でも学校が問題を抱え、先生が問題を抱え、保護者が問題を抱え、非常に苦労した。一番影響を受けたのは生徒達である。せっかく県下からいろいろな選りすぐりの先生を集めて高知南中学校をつくったが、それでも問題が起こった。ものすごく問題が起こったこの2年間、保護者が厳しい状況を経験している。そういったところから、この資料の5ページの案3への矢印を書いており、8月1日に我々が出した案のように、やはり全体で一度に統合する方が良いのではないか。これを総合的に見ると、まず上にあるのが、高知南中学校の提案頂いたプログラムの内容。その下が、新たな学校及び高知西高校に対するプログラム。この中で、キーワードはやはり、平成33年度である。先ほど説明もあつたが、平成33年度から小学校5年生からもう英語の教科が始まるということは、35年には、新しい中高一貫にその5年生が入学するチャンスである。今回出していただいた高知西高校及び高知南高

校をフォローしていただくこのプログラムは非常に素晴らしいものであると思うので、これをぜひとも実現していただく。我々が出した案に対して非常に困難だと言うが、その真ん中に点線で書いてある、30年、31年、32年を具体的に統合に向けた生活プログラムといった形、要するに心理的なフォロー、心のケア、具体的な交流の実施の時期ということで進めていけば、子ども達にとっては良くなるのではないか。さらに、その前の27年、28年、29年は、この上と下のプログラムにある、本格的に新たな学校で取り組む初期の段階である。ここには入学時期における統合に向けた準備プログラムということで、今後、現在の高知南中高校も、高知西高校もこのように新たな学校に変化するというプログラムを組めるのではないか。それから併せて、新学校のコンセプトなどを周知しておく時期ではないか。実際は、この時の生徒は統合する平成35年には卒業する。しかし、こういう中で保護者や生徒に周知していくことが県民、それから県内の学校及び子ども達への非常に良いプログラムになるのではないかと考えている。そうしたことを併せて、入試、入学、進学に向けた小学生を対象としたプログラム対応ということでフォローをしていけば、35年に1年生、2年生が新たな学校でスタートするにあたって、非常にリスクの少ない状況で生活を送ることができるのではないかと考えている。

また、その右、真ん中のところのマルであるが、34年、35年の高校、これは高校での国際バカロレアの継続、かつ先進的なグローバル対応ができる教育プログラムが実施できる範囲である。それから、下の中学校の30年から34年にマルを付けたところ、これを少しその右下に書いているが、これを見たときに、この点線と黒い太線のところが大きく分かれる。まず点線のところが高知南中学校で120名とるという案。細かい数字の詳細は先ほどの資料の5ページにある、参考3というところを見ていただければと思うが、これは完全にAの時期であって、お互いにこのAの授業プログラムの実施ということで、従来の高知南中学校をベースにフォローした教育を実施することが可能である。それから、この、太線のところは国際バカロレアの実施に具体的に進んでいく子ども達である。下の括弧の横に書いてある数字は人数であり、その下に中3、中2と書いているのは、平成35年に迎える学年である。この子ども達は、Cのプログラムの時期であって、本格的な国際バカロレア対応ができる。ということは、学校がどうであれ、教育環境を全て線引きをすることもできるし、学校内での差別化もできるのではないか。そして、この間にある真ん中のところ、上下に「(グ)60」と、「(バ)60」と書いてあるが、これは網掛のところの、国際バカロレアを実施したプログラムができる。結果的に、平成30年のところの一番下の中1の子ども達は35年には高校3年である。平成35年に新たな中高一貫校ができたときの学校自体は、対外的にはもうそこにいる高校3年生は国際バカロレアの6年間を取得する高校3年生、そして卒業する生徒ということが必要だということは理解しているので、そこであれば、この網掛のところについては、差別化して、グローバル教育と国際バカロレア教育の実施が先行し

てできるのではないかと思われる。

そして、その右に点線で書いているが、仮に県が出した別案の右上にあるような形をとすることであれば、60名というのは非常に人数が少ない。120名で新たな中高一貫校への入学というのが望ましい。その中で、矢印があるように、上と下にある、ABCと書いた、それぞれの学校に対するフォロープログラムを実施するというのであれば、人数が現状のままでもいいのではないか。120名は新たな中高一貫校に行けると。今現在中学校は120名でやっている。ここには書いていないが、新たな中学校については定員が80名でいいかと思う。ただ、それを考えたときに、その左カッコに書いているが、やはり、高校でも中学校でも後輩がいないということは問題が残る。

そして、新設校への中学校からの人数が120名ということが多いということもある。また、新たな中高一貫教育校の設置までの間に、2校でこういった対応をしなければならない。ある程度の規模を持った、120名、80名で行かなければならないということで、これもなかなか問題がある。ということを下の太線であるように、中学校も高校もそのまま34年まで行って、ここに出された資料1及び補足説明資料の2と3の具体的な教育内容プログラムのほかに、生活面に向けたフォロープログラムを、生徒、そして保護者、関係者、それから地域の方々とも共有し、理解し、学習していけば、問題点は非常に少ないのではないかと思われる。そこをぜひとも、もう一度考えていただいて、しっかりと丁寧に、慎重に、子ども達に下がらない、上がらないという学年をつくらないようにしてほしい。今ここにいる私達大人達の間では、たかが2年かもしれないが、当事者になった子ども達の2年間、もしくは1年間というのは、非常に心に大きい傷、大きな影響を将来的に及ぼすのではないかとということが懸念される。このため、最大限に、後輩もいる、皆で一緒に行く、その中で懸念される問題があるのであれば、問題が起こったときに、日本中で探したいろいろな事例をフィードバックし、検証し、何が問題だったかをこのようなプログラムの中に組み入れて、教育センターといったところが主導し、そして保護者や生徒、地域も密になって検討、学習していけば、問題解決できる可能性が非常に高くなりリスクが少ないのではないかと思われる。私はこの辺について、改めてしっかりと考えていただければと思う。

この、補足説明の2と3の資料の教育内容については、今後どう変わるかは分からない。ただここまで出していただいたのであれば、本当に苦勞を思うが、ぜひとも実現してほしい。この教育が変わる時期、人口減という中、高知県として初めての新たな中高一貫校を2校が目指すという点では、このプログラムは非常にありがたい内容であるし、欲を言えば、もっともっといろいろなプログラムを付けていただいて、どんどんやっていただければ非常にありがたい。高知南中高校にとっても進化するし、高知西高校にとっても進化するという理解。統合というのは何回も説明したかと思うが、単純に、どちらかがどうなるのではなくて、お互いが1足す1が本当は2だけでも、100であり1000

事務局	<p>であるというようなどころまで持っていけるようなプログラムを組むというのがベストと思う。高知南中高校も新たな中高校になるし、高知西高校も新たな中高になるというベースを基本的において、やっていくというのが一番ではないだろうか。私達はこの案を今まで県の方々にも何回も会議を持って話をした。単純に閉校、廃校という形であれば問題は違うが、我々は基本的には内容を理解した上で話そうということをしている。大人は苦勞するかもしれないが、子どもにとって負担の無い、特に負担をするのは保護者であり、親であり、教育者かもしれないが、その中で惨めな思い、窮屈な思い、さびしい思いをさせないというのが我々先人の役目だと思っている。であるから、ぜひとも、この案について実現を目指していただければ、我々も1万人を超える会員に説明をしていけると思っているので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>資料を作成していただき、ありがとうございます。</p>
保護者代表	<p>最初にご意見を頂いた、こちらの資料の中身について訂正があるということがあった。中身については、学校にも確認をさせていただき、修正点があれば公表までに修正させていただきたいと思うので、ご了解をお願いする。</p> <p>それから、いただいたご意見であるが、こちらが作成した資料2の5ページでご説明させていただいたことの繰り返しになるため、ご了解いただきたいが、おっしゃるような、それぞれのプログラムを適用することで高知南中学校で国際バカロレアコース、グローバル教育科に進む生徒にも対応ができるのではないかとご意見が一つあると思う。こちらとしては、先ほど申したように、新しい中高一貫教育校の高校教員と連携した形で進めていく中で、グローバル教育に向けた生徒を育成したいということが前提であるので、繰り返しにはなるが、なかなか難しいのではないかと思っている。</p> <p>それから、中学高校が一度に統合するという形は先ほど申したように、進学時期、進路決定の時期から、生徒への影響が大きいと考えているので、おっしゃるような、いろいろな解決に向けたプログラムの実施ということも考えられるが、やはり生徒には影響が大きいのではないかと思っており、ご理解いただけたらと思う。</p> <p>生徒に影響が大きいという意見であるが、例えば、少人数によって下がないことについて、こういうプログラムで影響を少なくしていこうということであれば、今回私達が出した全体で移ることについても、教育内容については、県の方が出していただいたこの資料の中で進めていただければ十分フォローできると思う。その中で、先ほど心配されているところというのは、心理的なフォローとか、高知南がいるのかな、高知西がいるのかなというような集団になったときに、そこが懸念されるということであれば、心理的なカウンセリングであったりとか、そういったものを十分にすることによって、それはフォローできるのではないかと。それが1年、2年後ということであれば、非常に難しいかもしれないが、ここに書いてあるように平成27年度から準備段階、そして平成30年度より具体的に連携しながらフォローしていくという準備段階を取</p>

教育長	<p>っていったら、最後の34年、35年、実際の当事者である子ども達にとってみたら、それは当たり前のような感じになるのではないかと。言わば、物理的な言葉でリップング、そういうふうな形のもので対応していくということを望んでいる。教育ができるのであれば、こういったケアのフォロープログラムも組んで、同時にできるのではないかとと思われるので、その辺の検討をぜひともお願いしたい。</p>
保護者代表	<p>本当に、いろいろ深く考えていただき、こういった資料も作っていただいて、ご提案を頂いているということに敬意を表したいと思うが、ただ、我々として、検討してきた中で、高知西高校の関係者の皆様にもご理解を頂き、ただ今説明させていただいた別案を提案させていただいているということである。確かに2年間、下級生がいなくなるということのデメリットとか、そういう生徒に対する不利な面があるのはおっしゃるとおりであるが、我々としては、そのところを、今、精一杯やろうとしている。さらに工夫もさせていただいて、カバーするというのを考えたいと思うので、この点、ぜひご理解を賜りたいと思っている。</p>
保護者代表	<p>一言で言えば、この案については、私からのお願いということで、理解していただいて、ぜひともそのお願いをお願いしますということでご理解いただきたい。</p>
保護者代表	<p>この前の高知西高校の協議会も傍聴させてもらったが、まだ何日か前の話なので鮮明に覚えていると思うが、すごく心配に思っていることがある。中学生の寮とか、そういう話が何回か出ていると思う。高知南中学校には、企画監もこの前言っていたが、横浜地区だけではなく、今いろんなところからも来ているので、そういう体勢でやるべきでないかと思う。というのは、新しい中高一貫校の近くには朝倉中学校もあり、西部中学校もある。高知市の中学校のバランスというものも考えた上で検討しないといけないので、中高一貫校を新たにあそこにつくったから、寮をつくる、何々もするというようなお金を使うならば、もっと違うお金の使い方もあるのではないかと思う。それと、保護者の方のお話で、寮をつくり、携帯電話や食生活の指導の方も、学校にしてもらいたいみたいなことがあったが、そういうことは、はっきり言って家庭ですることであって、何もかも学校に、あれもしろ、これもしろと言うのは、ちょっとどうかと思う。しつけは基本的には家でするものだと私は思っている。今、裕福な時代になって、あっちもこっちもラインをやったりとか、事件もあったり、事故もあったり、いろいろなことがあるが、今回の統合の話の際にそれを全部言ってしまえみたいなノリの発言を聞いて、学校がそこまで深く入ってやるべきものではないと思うので少し考えておいていただきたいと思う。</p> <p>それから、この資料を見たら、ものすごくいい内容であるが、高知西高校の特色、今やっているものと高知南中高校の特色でやっているもののスタンスが全然違う中で、新たにやろうとするものである。本来は今日ここで校名どうのこうのということ言うべきではないが、お互いが残したいのは当たり前の話だ</p>

と思う。高知西高校も名前を残したい、高知南高校の名前も残したい、私達も一緒であるが、この内容を見る限り、全然、全く違う学校を新たに県でつくろうという話であるので、あとで関係者の人と、県民の意見を聞くということを資料には載せているが、やはり全く違う学校ができる、つくるということを頭に入れた上で、校名のこととか、そういうこと等は今後きちんとした話し合いをするべきだと思うし、していただきたいという思いはある。

また、高知南中高校の良さがあまり出ていないのですごくがっかりした。英語も大事である。勉強もすごく大事である、もちろんの話。けれども大人になっていく段階で、キャリア教育とか、人間を育てるというものを基本として、学力ばかりではなくて、英検にしても、3級だ、準2級だ、この学年でこうだということもいいが、そればかりの目標に向かってしまう。子ども達がだんだん、そればかりに時間を取られて、部活のこともできなくなるのではないかとこれを見てものすごく感じた。勉強も大事だし、世界に出るなどということもすごくいいことだが、部活をやったり、人としてどういうふうに生きていくかということも、カチツとした教育をしてほしいと思っている。教育とはどういうものか原点に戻って考えてほしい。勉強だけできても、いいところに必ず就職できるとも限らない。中には、中学校しか出ていない方でも、立派な方はたくさんいる。人間をつくるということをもう一度考えた上で、この統合案にしても高知南高校は人をつくるという意味では、生徒や学校の関係者の方も、ものすごく力を入れて、部活を通し、いろいろなことを通し、ということをやっている学校なので、そういうスタンスももうちょっと汲んでもらいたいということも思った。今後まだ何年もあるので、この通りにならない可能性もあるかもしれない。いろいろなことが変更になるかもしれないので、こういうことも原点に、きちんと頭に入れた上で、学業も大事だが、人として何が大事なのかということもきちんと県の方で考えてやっていただきたいと思うのでよろしくお願いする。

保護者代表

私も、今回4回目になる。いろいろ話を伺い、いろいろな資料を拝見させていただいた中での疑問点を質問させてほしい。

今回の統廃合についてのもとは、平成25年2月に出された、県立高等学校再編に関する報告書に基づいて、当然、準備をされたということだろうと思う。そのときの資料に、高校生等にアンケートを出した結果がある。先ほどの質問と関連するので、読ませていただくが、23年の9月に高校2年生540名、保護者465名の方に行ったアンケートに、例えば高校に行くとき、通学の便利さについてはどうかといった質問があり、高校生の43パーセント、また保護者も47パーセントが、通学の便利さを選んでいる。具体的には高校生のうち6割が30分以内に通学できる高等学校を選びたいとしている。もう一つ、アンケートの中で高校の適正規模がどれぐらいが良いかという質問も一緒にあり、高校生は2～3学級が適当ではないかという答えが31パーセント、4～5学級が適正でないかという答えが33パーセント、合わせて64パーセントの人が



	<p>5学級以外でいいというデータが出ている。どのような学科が一番良いかという質問では、進学とか、就職に対応できる普通科が良いと、74 パーセントの方が選んでおり、音楽とか、美術とか、体育とかができるところがいいという答えが、36 パーセントで2番目になっている。こういうアンケート結果も踏まえて、今回の再編計画が検討されたと思うが、この再編計画の学校の統廃合についてという、13 ページ、最後の端にある部分を読ませていただく。「各学校は学校の方向性やあるべき姿を示し、学校の魅力化や果たすべき機能を明確にして、生徒数を確保する取組を行っても、なお、将来的に最低規模の生徒数を確保できる見込みがない場合は、統廃合もやむを得ない。」となっている。そこで、質問であるが、この会は全部で1年半にわたり、12 回行われている。その中で、いつ高知南高校と高知西高校の統合案が出されたのか、答えていただきたい。</p>
事務局	<p>アンケートに関するご意見については、適正規模について2～3学級の答えが多いということであったが、そもそもこのアンケートの対象区域が高知市内以外の中山間地域の中学生保護者を約 82 パーセントを対象としていることから、もともと進めている、高知市内及びその周辺部の適正規模の対象範囲とは違う方々の、中山間地域の方々が多いことからこういった回答になっているのではないかと考えている。</p>
保護者代表 事務局	<p>この方針にはない高知南中高校と高知西高校の統合を、いつ議論したのかということであるが、方針を策定する中では、どこを統合するのかという具体的な高校名の議論は行っていない。あくまで基本的な方針を作成したということであるので、報告の段階ではなく、作成された後に議論をしているということである。</p>
保護者代表 事務局	<p>では、目的に合っていないアンケートをしたという事実があるということか。もともと、この報告を作成する段階では、高知市内周辺部の統合ということではなく、全県下の高校のあり方をどうするかという議論の中で行ったアンケートであるので、その様な面から高知市内中心だけを取るということではなかったことをご理解いただきたい。</p>
保護者代表	<p>では、検討委員会の設置要綱を読ませていただく。この設置要綱の目的を第1条にいろいろ書かれているが、「県立高等学校の在り方、具体的な再編振興計画の進め方、教育環境の整備等について検討し」と書かれているが、具体的な話は全然出ていないのに、それが今回こういったことになるのは、設置要綱の違反というか、法的にも問題があるのではないかと思うが、その辺り、今日でなくても結構なので、法律関係の専門の方にお尋ねいただき、また回答いただければと思う。その辺りが非常に疑問に思っている。</p>
事務局	<p>設置要綱に、「県立高等学校の在り方、具体的な再編振興計画の進め方及び教育環境の整備等について検討し、教育委員会に報告することを目的…」と書かれていると思う。この検討委員会の趣旨は県全体の県立高等学校をどうしていくのか、これから10年先をどうしていくのかであり、県全体の中で、それ</p>

	<p>それぞれの学校のバランスの問題等いろいろな部分を大きく考えていただき、方向性として出していただくということが大きな目的であった。県教委はその方向性に基づいて、それぞれのエリアで具体的に考えて、最終的に再編振興計画を策定する。その部分において前期実施計画として、高知南高校と高知西高校の統合、須崎高校と須崎工業高校の統合、あるいはいくつかの学校の改編といったものを具体的に時間をかけて検討させていただいて、たたき台を出させていただいたということである。</p>
保護者代表	<p>事務局の方の返答は結構。法曹関係の方に、聞いていただいて、回答いただければと思うのでよろしくお願いする。</p>
保護者代表	<p>副会長が言った内容も踏まえて、私が言った、できるだけ子ども達に影響のない形での検討をお願いしたい。</p>
教育長	<p>ところで、先日行われた全国学力・学習状況調査の結果はいかがなものだったのか。発表できる、できないはあるということを新聞では読んだが、答えられる範囲でお願いしたい。</p> <p>近く高知南中学校からも公表されると思うが、平成19年当時は高知県全体もかなり厳しい状況であった。高知南中学校についても同様に、かなり厳しい状況であったが、近年ぐっと上がって来ており、今年は全国平均から比べてもかなり高い実績になっていると聞いている。</p>
保護者代表	<p>先ほど事務局から、保護者の質問に対して、高知南高校と高知西高校の統合については検討をしていないという答えがあったが、私の聞き間違いか。</p>
事務局	<p>報告書の段階では、ということである。</p>
保護者代表	<p>その後で、全てのいろいろな状況を勘案して、いろいろな学校の検討をしたということか。それが出たのが、去年の3月のことで、今年の1月に至るまでの間に検討して、高知南高校と高知西高校が候補に出てきたという認識でよろしいか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
保護者代表	<p>了解した。前にも言ったと思うが、何回聞いても納得いかない部分があり、再確認である。資料の中で、10年後に、県全体で1,000人の中学の卒業生が減って、高知市内では400人前後の生徒が減るため、学校規模を今の状態で維持するためにという話が出ているが、高知南高校の定員は、募集人員が240人であるが、実質200ちょっとしかいない。それで、10年かけて、高知南高校を統合するというスケジュールで提案を頂いているが、200人そこそこの減で、この400人のうちの後の200人をカバーできるのかという疑問がずっと残っている。高知南高校だけ統合しても、焼け石に水状態。特殊な工業系とか農業系のところはもうすでに4クラスとか、5クラスとかになっているので、これは別に勘案しなくていいとは思いますが、それでも、高知東高校も現状6クラスしかないし、高知追手前高校も7クラス、高知丸の内高校が5クラス、高知小津高校も7クラスということだが、実質は40人いっぱいではなく定員割れである。それが、高知南高校の200人そこそこ、募集定員で240人を減らしたとして、</p>

	<p>10 年後に、何にもならなかったということになりはしないかと、とても心配している。この前の高知西高校の協議会の話も聞かせていただいたが、すごく建設的な、ポジティブな話ばかりだが、高知南中高校の方はネガティブな話ばかり続いて、これもできない、あれもできないという話ばかりなので、保護者OBとしては、統合を唱えるのであれば、もっと実効性のある、私達の納得できるプランを出すべきではないかという思いがあるが、その点はどうお考えか。絶対大丈夫なのか。</p>
事務局	<p>最初にいただいた 200 名が減ることで対応できるかというご質問であるが、5 月 17 日に作成した資料で高知市内において、今後 350 名程度、それから 20 年で 750 名程度と減ってくる。それで、高知南中高校の、先ほど言った、定員は少ない 1 学年 200 名として、1 つの学校で高校が 600 名ということであるので、10 年で約 300 名あまり減るとしたら、600 名という数である。</p>
保護者代表 事務局	<p>それは高知市内の学校だけの話か。近隣を入れずに。 そういった形である。</p>
保護者代表	<p>高知南高校全体だと当然 3 学年いたら 600、700 人ほどになるが、1 学年しか減らない。</p>
事務局	<p>10 年で約 300 名の減少である。</p>
保護者代表	<p>5 月の資料では、近隣を入れると、高知市その周辺地域では 421 人減るようになっている。</p>
事務局	<p>その 421 人というのは旧高知学区ということで、また高知市から若干広い範囲で取っているの、その数の違いは出てくる。</p>
保護者代表	<p>高知南高校はそういう地域、広い範囲から入学している生徒が多いので、そっちで考えると高知南高校の 200 人ほど減らしてもほとんどが市内に残らずに、郡部の学校へ行ったりした場合、市内の生徒数が確保できるのかという、すごく疑問だが。香我美の方から多分来ているし、うちはもちろん仁淀川町であるし、2 人お世話になったが、そういう広い地域から来ている学校、高知西高校なども広い範囲から来ているとは思いますが、近隣だけで 421 人減るのに、200 人そこそこである。今、240 人の定員に対して、南は 200 人ちょっとですよ、高校の 1 学年が。それでは、半分しかカバーできないのではないかと。単純計算で半分だから、実質その地域性を考えたら、半分もカバーできないのではないかと。高知南高校が統合されて、無くなったものの、10 年経ってみて、あんなことをしても無駄だったと言われるのは非常に嫌だと思ふ。実効性のある統合にならないと、親としては納得できないし、子どもや保護者に説明できない。</p>
保護者代表	<p>今の 4 人の保護者代表それぞれが言った内容、それら全てが単独で動いているかもしれない。総合的に動いて、この統合案についてどうなのかという意見を出しているの、その辺は十分考えて、吟味、精査していただきたい。これを今言ったような形で台無しにするような結果にならないような形、それであれば「やはりこの案は…」、みたいな形になるかもしれないが、そういうものも</p>

	含めて、一つ、十分、慎重に丁寧な考え方をよろしくお願ひしたい。絶対によろしくお願ひする。
--	--

○高知南中学校・高等学校関係者 校友会代表との意見交換

<p>校友会代表</p>	<p>先ほどから資料を拝見させていただいて、学校の特色といっても、グローバル教育科というのが、すごく主体にあげられていが、普通科も当然あり、先ほど保護者代表の方から、人間形成とかいう、柔軟性とか、いわゆるコミュニケーション能力というものを付けないと、いくらグローバル教育科などという話ばかりしても、人格ができないと、中高一貫でやっている意味が全くなくなると思うが、普通科としての具体的な取組についてはどのようにお考えか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。言われるように、先ほど保護者会の方からもあったが、人間形成が一番大事である。現在高知南中高校はキャリア教育という一つの大きな柱の下、人間形成を教育活動全ての中でやっている。ここでお示しさせていただいた充実策の中に、グローバル教育プログラムなどのプログラムを作ってしっかりやっていると書かせていただいているが、このグローバル教育プログラムの中身は、人間をしっかりつくっていく中において、コミュニケーション能力や課題解決能力といったものを身につけさせ、そして社会に出た時に自分の意見を言い、また、海外に出た場合については、自分の国のしっかりしたアイデンティティを持って、他国の方々としっかりと話していくというところに発展させていこうということがグローバル教育であるので、決して、例えば英語教育だけをやるとか、そういうことではない。まさしく、キャリア教育をさらに大きく進めていき、その先にグローバル教育があるというふうにご理解いただきたい。これは普通科でもしっかりやって、今もやられているし、これからもやっていかなければならないと思う。同じものだとご理解を頂ければと思う。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>「校名等については、その間に両校の関係者や県民の皆様のご意見もおうかがいしながら」と、言っているが、この県民の意見を聞くということは、公募という形ととってもよろしいか。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の時点で、どういった形でというところまでは決めていない。間違いなく、県民の皆様のご意見はうかがうということは考えているが、具体的なやり方については、現時点では決めていない。</p>
<p>校友会代表</p>	<p>校名などを決めて、またいきなり公表されるのではないかとかがすごく心配される。検討して、県民の意見を聞いてという段階を、何かの方法で出してもらわないと、また新聞で新校の名前が、高知西高校であるとか、いきなり出されると、またこちら「えっ」という形になるので。正直、前回のインパクトがあまりにも強かったので、検討するという言葉に、検討とはどういうことかということに不安感があるので、今ここで校名をこれにするなどという話は無理だが、せめて、県民に聞くということまでは言えるのであれば、公募はする、その後、こういった段階で、こういうことになっているなど経緯を示していただきたいがどうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>ご懸念のお気持ちは受け止めたが、説明したように、きちっとスケジュールを組んで検討していくということで、やらせていただきたい。当然そのときには、</p>

<p>校友会代表</p>	<p>教育委員会として責任を持って決めるということであるから、説明責任のこともあり、検討過程の透明性もあるので、そこに心がけてやっていきたいのでよろしく願います。</p> <p>多分最後だと思うので、お願いというか、高知南中高校があったということ、統合後5年経って、他の県民の方々がそんな高校もあったんだとかいうものにしてほしくはない。たくさんの高知県の人達が関わってきた学校であるので、何も残さずに、そんな高校もあったんだという言われ方をするような統合は避けていただきたい。高知南高校の良いところを、新しい高校では入れてもらいたいし、高知西高校のままではあのような高校にはならなかった、高知南高校と一緒にになったから、こんな高校になったのだとか、逆も、高知南高校だけでは、あのような高校にはなっていない。高知西高校も一緒にになったから、あのようなすばらしい高校になったのだというようにしていただきたい。そうする責任が私達にもあるのかなと思うので、こうしてお願いを最後にさせていただく。よろしく願いしたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>本当に貴重なご意見を承った。言われた様に、我々としてもそのような形に持って行きたいと思っている。ありがとうございました。</p>

○高知南中学校・高等学校関係者 進取会・国際教育振興会代表との意見交換

進取会代表	<p>国際教育振興会の方の副会長を兼ねており、会長が今日欠席しているので、一緒に意見を述べさせていただきたい。</p> <p>前にも発言させてもらったが、進取会というのは、高知南中高校の校訓を取って、第1期生の卒業とともに作らせていただいた。まだ、校友会もできたばかりで、学校の支援という形にはならないだろうということで、平成2年ぐらいにできている。高知西高校とは違う組織が1つあるということになっている。それと、国際教育振興会の方は平成7年にできており、高知西高校の国際交流推進会とだいたい似通った支援団体になっている。</p> <p>そこで、私のほうからは、まず、校友会会長からも校名についてということを出したが、やはりどこかでは決断をしなければならないと自分は捉えたが、補足資料の1を見せていただいて、現在の高知西高校と高知南高校の統合の後の新しい中高一貫高校の姿ということで、高知南高校ができて28年経つが、高知県にグローバル教育ということを全身に当てた特色のある新しい中高一貫教育校ができるということで、私は捉えさせてもらいたい。こちらの資料の3であるか、ここにも統合に向けた、校名とか、校章とかの取扱ということで説明を頂いているが、責任を持って決定を教育委員会がする、そこに校友会会長の気持ち等、皆さんの心が詰まっているように感じているので、もうこれが高知県で新しい学校をつくるのは最後かも知れないが、28年ぶりに新しい学校をつくるのだという形で、ぜひ、教育委員会の方には取り組んでいただきたい、その思いである。</p> <p>それと、2つ目としては、統合の方法について保護者代表が非常にすばらしい資料を作ってくれ、事前にすり合わせも何もしていないが、自分の方もだいたいそんな形かなということで、事務局が説明してくれた、ページ2の別案と、後3、4、5とあるが、案の2、3については私も統合であれば一度にできるかなということもお願いもしたが、実際こういう資料で説明をいただいて、ハードルが高いということを感じているところである。それで、ページ3の、この案の1の中で、「中学校段階から併設した高等学校の教員が日々のさまざまな教育活動に密接に関わり云々」とあるが、高知南中高校でもできるのではないかと考えた。教育センターの機能の一部も移転するというスケジュールであり、そういうことも考えれば、よりすばらしい教育が2ページの別案の30年から34年まで中学校のところは、高知西校の60人を上乘せして、120人ということになると別案の1になってしまうが、そういう形を再考していただけないかと。選考も30年度から変える。そういう意見もいただいたし、120人にして、英検の準2級と3級、これを半分ぐらいの生徒がということも、補足の資料に書いてあったが、それを60人で半分ではなくて、120人で半分半分で英検2級と英検3級の方でグローバル教育科の方へ33年の移行のところで、60人と60人。黒い四角とひし形の60人で、2級と3級ということで、高知南中学校で育てて、高知西高校で合併するというような形ができないかと考え</p>
-------	---

	<p>ていた。そうするとやはり、保護者代表が言ったような33年、34年の高校生については、どうしたら良いかというところで自分も考えがまとまらないところであったので、ここに対してはやはり、募集停止による教育環境に対して十分な支援を考えていただけたらと考えている。この統合の仕方、60人、60人に分散する方が、高校教員が中学校の生徒を指導すると思うが、そういうノウハウは高知南中高校の方が十分苦労もしてきたし、この初年度の60人、次の120人、だんだん増えていくが、そういう中で、教員を分散するより高知南中高校でかためて、そこでしっかり教育をして、高知西高校の方へ移行するとかということが検討できないかというところをお願いしたいのが2点目。</p> <p>最後に、もう1点、国際バカロレアについて、お聞きをしたいところがある。資料3のスケジュール案の真ん中、国際バカロレアの導入に向けた取組の人材育成というところで、「国際バカロレア認定校での研修、教員の採用の検討」とある。確か、国際バカロレアの認定校になるためには国際バカロレア機構の審査があるように認識をしている。現在の認定校が国内で、今年の1月1日だったと思うが27校。インターナショナル校を除けば7校のみ。認定校を目指す具体的な取組とかというような、資料の3、平成33年度でこの国際バカロレアの準備、1年でできるのかなという、その国際バカロレア機構の資格自体取ることも非常にハードルが高いのではないだろうか。その具体的な中身を聞かせていただければと思う。それからまた平成34年度からは、国際バカロレア機構の認定を受ければ、高校生対象であるからディプロマプログラム資格の取得ということで目指していきだろと思うが、その辺ももう少ししっかりと検討していただけて進めていただけたらというところである。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。1点目の校名については、先ほど、お答えさせていただいたとおり、繰り返しになるのでご理解をお願いしたいと思う。</p> <p>統合の仕方について、案の2、3はハードルが高いということで、ご理解いただけたと思う。それから、案の1について、先ほどご意見をいただいたように、高知南中高校の方で、グローバル教育を教員も含めてできるのではないかとのご意見であったと思うが、新しい中高一貫の教育校の進める中高一貫のグローバル教育科に進む、現在の高知西高校の英語科というものを母体にした、教員も含めた教育の中身と連携するということを前提で進めさせていただきたいと思っているのでご理解いただきたい。</p>
事務局	<p>国際バカロレア認定に向けた教員の育成ということであるが、現在、東京学芸大附属の国際中等教育学校で研修をして、グローバル教育も含めて、国際バカロレアのことも勉強をしている状況である。今後は認定校そのものが増えてくるので、例えば、都立国際高校が次期認定に向けてもう動いている。そういうところでの研修であるとか、国際バカロレア機構自体がワークショップということで、年に何回か、日本でも研修を行うというようなこともあるので、そういうところにも教員を派遣をして、少数の人間だけ知っていてもだめであるので、いろいろな教員に国際バカロレアについて知ってもらうことも必要だと思</p>



	<p>っている。それから、ディプロマプログラムについては、実はかなり細かく教育計画が決まっている。その翻訳を今、文科省もしているところである。当初は夏ぐらいと言っており、日程は遅れているようであるが、順次できたところから公表されていくので、翻訳がされれば、日本の学習指導要領とのすり合わせも順次していくということで、私どもも十分研修をすれば、対応ができると考えている。そういう形で順番に、さらに計画をしっかりと立てて、教員の確保に努めていきたいと考えている。</p> <p>ありがとうございます。</p>
進取会代表	<p>ぜひ、その、国際バカロレア、素晴らしい教育目標を立てているので、生徒の前にやはり、教える先生の教育ということをもっと充実、前進させていただきたい。</p>
	<p>あと、合併の方法については、説明をまたしてくださったが、やはり自分としては、高知南中学校を立ち上げたときに大変だったという思いが非常に残っているので、そちらの方のデメリットが大きいのではないのか、一度に統合するリスクの方が少ないのではないのかという思いが非常にあるため、しつこいようだが、また最後までご検討お願いして私の発言を終わりたい。</p>
進取会代表	<p>今の統合のことで、皆さん言われた中で重複するが、私としても、このご提案いただいた案の3を捨てきれない。</p> <p>まず、高知の先生方の質を、教育委員会の方はどう思われているのか。学校によって、先生方の質とか能力にそれほど差があるのか。まず、それをお答えいただいてからにしたい。</p>
事務局	<p>高等学校のということか。いろいろな高等学校は、それぞれの学校で、産業系であったり、普通科であったりする。</p>
進取会代表	<p>今の高知西高校と高知南高校に限定してほしい。</p>
事務局	<p>高知西高校、高知南高校ともにそれぞれの学校の特色に合わせた教員がしっかりと生徒達を教育しているということだと思っている。</p>
進取会代表	<p>なぜそれを聞いたかと言うと、この3案が無理ということの中で、一番大きいのが、高校の先生が中学生にも随時教えに入ると。この前も言ったように、高知南中学校に中学生をかためて全部残しておいて、そこに高校の教員が教えに来るという案もあると思う。高知南高校にも英語に関する素晴らしい教員がたくさんいるし、統合するまで高知南高校の校舎を使えば、それまで新しい教室を作る必要もない。教員にしても、わざわざ教育センターの方からいろんな指導主事を派遣してもらわなくても、その分、英語だったら英語に関する、それから他に何か外国語とする1教科分の先生に高知南中学校へ来ていただければ、何も問題が無いと思うので、あえて半分半分というか、バラバラにして、2本立てにして、別案のように階段式にして、先輩がいない、後輩がいないというような、子どもにとって非常にマイナスなこと、大人の考えではこれで、そのうち10年先を見て、ちょっと不便を困ってくださいという気持ちかも分からないが、当事者にとれば、一生の内この時しかこの学年はない。この時し</p>

か、中1、中2、中3、高1、高2、高3はない。それを大人の論理で、それから教員の配分の論理でバラバラにする。別々にして、両方に不便な思いをさせる、不都合を、不利益をもたらすというのはやはりそれは大人の論理であって、子どもを中心にした論理ではないと思う。であるから、高知西高校にいる教員ができる授業を高知南高校にいる教員が中学校でできないと教育委員会の方が考えての発言であれば、非常にそれはおかしいことで、それだけ能力のある教員を高知南高校に配置すれば何の問題も無い。校舎を完成させることが3年後ろ倒しにできるので、経費的にもずいぶん節減できると思う。そして、子ども達も先輩がいない、後輩がいない学年が無くて済むことになる。それで、一度に新しい高校に行くので、何も違和感が無いと思う。一緒に勉強してきているので。まずそれを思うので、この3案を捨てないでいただきたい。

それから、校友会会長も言われたが、高知南中高校があったということは私達にとって、子ども達にとっても非常に忘れがたいことであり、他の人達にも忘れてもらいたくないことなので、一つの案として、高知南高校の入口のところに進取という石碑があるが、あれを新しくできる学校の正門近くに移設していただきたい。それで、移した横に高知南中高校があったと書いていただいても、黙ってそのまま置いていただいても構わないので、あったということ、高知南中高校を出た人達が何か高知南中高校のこと偲びたい時にそこへ行って見ることができる、そういう碑を、新しい高校が統合したのだということで、置いていただきたいと思う。

それと、やはりグローバルとか、国際バカロレアということを見ると、今もう、英語一本やりで言われているが、高知南高校は今、中国語と韓国語は選択で勉強している。それも踏まえて、グローバル教育科、国際バカロレア両方のことを考えて、2か国語以上の外国語を習得できる新しい中高一貫校にしていきたい。2か国語ではなく、2か国語以上である。特に10年後を見越しての合併と聞いているので、10年後には英語のみではないはずである。それこそ、ヨーロッパの方、中国にしても韓国にしても、聞き及ぶところによると英語のみではない。もう小学校の時から何カ国語か、特にヨーロッパでは3カ国、4カ国語が当たり前で普通の授業でされている時代になっているので。それから、日本の中でも、小学校3年から英語をするならば、他の語学も、高知市内でも特区で潮江南小学校等が中国語を教えて、それなりの成果をあげており、できないことではないので、英語のみに固執しないで、それも新しい中高一貫校のグローバル教育科で、できれば、普通科の方にも希望者がいればそれを習得できるプログラムを組んでいただきたい。

それと新しい学校で中高一貫校できる、グローバル教育科、それから国際バカロレア、ものすごく素敵なことだと思うので、ぜひこれを良い姿で1日も早く実現できるようにしていただきたいと思う。そこでちょっとお聞きしたいのが、先ほどの冒頭にも言われたが、統合決定が遅くなると子ども達が不利益を被りますという言葉があったが、タイムリミットはいつと思っているのか。そ

教育長	<p>れを過ぎれば、子ども達がどんな不利益を被るといことなのか。それをはつきりと教えていただきたい。</p> <p>それから、新しいグローバル教育科、国際バカロレアの中で、いわゆるプレゼンテーション能力ということと言われたが、それと同時に少なくともこのグローバル教育科で、本当は全部の中高校でやっていただきたいと思うのは、ディベートをきちんとできる人間を育てること、人の意見を聞くことをきちんとできる、そして自分の意見をきちんと述べることのできる、特にアメリカは小学校からディベートをして自己主張する、そして相手の意見をきちんと聞くという勉強をしているが、日本ではそれができなくて、自己主張だけを試みたり、自己主張ができなかったりということで、新しい学校では、ぜひこれをしっかりとプレゼンテーション能力とともに取り入れていただきたい。</p> <p>最後になるが、「新しい校名とする」ということにしてほしい。資料1の2、「統合する前に校名を…」と書かれているが、これは私としては言葉をすり替えられたと思う。最初は「校名を先に変えるということ」と言っていたので、校名を決めるのではなく、「新しい学校には新しい校名をつけるということ」を明言してほしい」と、この時もはっきり言ったと思うが、ここには「新しい校名を決めるということ」で、ニュアンスが違うので、これは訂正していただきたい。検討委員会を立ち上げて、最終的に責任を持って教育委員会の方が決める。その前にはパブリックコメントで広く一般市民、県民の意見も聞くということだが、一番忘れてほしくないのは当事者が一番熱い思いで校名のことを思っていると思う。これが新しくゼロからできる、高知南高校ができたときとは全く違うので、2つの学校が統合するという、極端に言えば私の中では、教育委員会とは別として、他の当事者以外の方、一般市民、県民の方から校名について聞くということはあまり意味が無いのではないかと思っている。当事者が本当に熱い思いを持って、高知西高校の方としたら高知西高校という名前も無くしたくない、高知南高校としたら高知南高校という名前が無くなるのに高知西高校という名前だけに統合されたくはないというような思いがあることを重く受け止めておいていただきたい。</p> <p>石碑の件であるが、この件については先ほどの校名等の検討ということもさせていただくことにしているので、そういった中で取扱についても検討させていただきたい。</p> <p>それから、統合が遅れることでのデメリット、どこが期限と考えているのかというお尋ねであるが、基本的に長期的には今回様子見している案にしましても、これから最終的に統合が完成するのは35年というような形で、今、方針が決定して取り組んだとしても、最終的に統合が完了するまで時間がかかってしまうことから考えると、1年遅れれば、1年だけ、そういった我々としては望ましいと思っている状態が遅れるのではないかと思っているし、短期的なことと言うと、これまでもご説明しているが、来年度の高校進学を決める時期がほしい10月末から11月と聞いているので、その時期を逃してしまうと、将</p>
-----	---

進取会代表	<p>来、高知南中高校、高知西高校がどうなっていくのかが、あいまいなまま決まらないといけないということになると思うので、そういったことも考える必要があると思っています。</p> <p>それから校名の問題については、先ほど来ご説明させていただいているとおりであるが、県民の意見を聞くのは適当ではないということか。</p>
教育長	<p>適当ではないではなく、思いということに関しては、非常に温度差があるもので、県民の意見は無視していいとか、意味が無いということではなくて、統合する当事者の思いほど強くないということを書いたかったのである。それに重きを置かれて、一般の人は高知西高校で良いと言っているからとか、そういう判断の中にあまり重きを置くと、正直言って、高知西高校卒業者の人数は絶対的に高知南高校卒業者より多いので困る。</p>
事務局	<p>多数決で校名を決めることにはならないと思うので、どちらにしても両校の関係者のご意見もうかがうし、それから県民の皆さんのご意見をうかがった上で、教育委員会として誠意を持って決めさせていただきたいという考え方である。</p>
委員長	<p>先ほど、グローバル教育、英語一本で行くより中国語とか、2か国語以上でというご意見があった。現在、高知南中高校でも韓国語、中国語も含めて国際理解教育ということでやっている。そういったことも引き継ぎながら、新しい中高一貫教育校の中で、どういったカリキュラムであるとか、具体的なものを限定していく中で今後英語以外の語学がどこまでできるのかということも含めて検討させていただきたい。</p> <p>それから国際バカロレアについてのご評価をいただいた。プレゼンテーション能力だけでなく、聴くとか、自己主張できるとかいったことを入れてほしいというご意見であったが、まさにそういった人材を育成するのが今後目指すグローバル人材に向けた新しい中高一貫教育校の取組であるので、言われるようなプレゼンテーションだけではなく、多角的な面からの人材を育成したいと思っているのでご理解いただきたい。</p>
	<p>私の方から一言言わせてほしい。</p> <p>私も教員をしてきたので、その体験から申し上げたいことがある。高等学校2年生、3年生の段階で学校を移るということ、新しく1年生を迎えて、学校生活をスタートさせていく時、当初私も簡単な導入をやって、授業時間を確保しないといけないという問題があるため、すぐに授業をやっていた。しかし、生徒達が人間関係をつくっていくとか、学校の授業に慣れていくことがなかなかできなくて、これは何とかしなくてはいけないということで、オリエンテーションというものを1週間ずっと続けてやった。そうすると以前とは全然違う状況が生まれてきた。それから今、県下の不登校の数は全国的に見ても多いが、例えば小さな小学校から大きな中学校に入学するという状況で不登校が発生する率が非常に高い。生徒達が人間関係を築くのに非常に苦労をしている。高校1年の段階でもそういう状況であるので、2年生、3年生になってくると、そ</p>

<p>進取会代表</p>	<p>の学校で生活リズムができてきおり、途中で変わってくるということに対する、また、別の学校で順応するという非常に労力がかかるし、生活リズムができていないのが崩される。また、特に2年生、3年生になってくると、進学、就職等に対応するためにかなり労力を使っているのに、非常に子ども達が苦勞するのではないかと思う。これはどっちが良いとか、どっちが悪いとかいう100パーセントの問題ではないと思うが、私の体験からすると、子ども達は我々が想像する以上にナイーブで、対応することに非常に苦勞をしているし、できれば、同じ学校の中で、学校の体制、あるいは教員の体制等を十分に充実させて、フォローする方が良いのではないかと私は思う。</p> <p>それから、先ほど来、新しい学校のことについて、いろいろご意見を頂いた。本当に理想的な姿を目指しながら、やろうということで、いろんなことを書いているが、人間性とか部活とか、そういうものがないのではないかとご指摘を受けた。確かに、文書を見たら、それが抜けている。抜けているというか、本来我々は、当然その視点を持っているわけであるが、その表現が抜けているということがあれば、その辺りは追加していきたいと思うし、やはり学校教育の基本は文武両道である。であるから、部活もないと学校は絶対成り立たないし、今の高知南高校や高知西高校の場合も見て、文化部も体育部もお互いに頑張っていて、県下でもトップクラスの部活がたくさんある。これから新しくできる学校は、それらが基盤になると思う。それからグローバル教育科ということも、今、高知南高校と高知西高校のグローバル教育というのは、他の学校よりも優れているわけであるからそれが基盤になる。それからキャリア教育に関して、高知南高校は結構経験を積んでいる。そういうものはこれから生かしていける。であるから、必ず高知南高校の伝統とか今築いているものが引き継がれる。それを基盤にして、新しい学校ができるかと私は確信している。</p> <p>私の方から二つだけ話をさせていただく。一つが姿勢の問題、もう一つは公平性の問題である。</p> <p>姿勢の問題に関しては今まで、何回かこういう会を持たせていただいて、意見をいろいろな人が言ってきたが、それに対して、教育委員会の方の回答なりが、「繰り返しになるが」とか、「理解してほしい」ということにずっと終始していると感じている。これはあくまでも決定はしていないわけであり、それに向けて検討をしている段階で、保護者なり関係者の意見を聞いていると私は理解をしているので、そういう意味では、ここでは回答としては、姿勢としては、出された意見について、持ち帰って、その意見を踏まえて、検討してみるという姿勢が絶対必要だと思う。そういう姿勢が全く欠けているので、何かずっと押し付けられている、一番最初に出された提案をずっと押し付けられているという感じがずっと最後まで残ってしまった。本当に残念なところなので、そこについては反省していただきたいと思う。</p> <p>それから公平性の問題であるが、高知西高校と高知南中高校の統合であるので、それぞれの犠牲というところはどうしても感情的に出てくると思うが、今</p>
--------------	--

の案で行くと、少なくとも高知西高校と高知南中高校を比較したときに、まず場所は高知西高校の方に行くということであるから、高知南中高校は全く無くなると。当然犠牲は高知南中高校だけに100パーセント強いられる。それから学ぶ環境についても、統合に向けた最後の2年間は高知南中高校の方は今の案でいくと、学年がどんどん減って、最終的には1学年しかなくなると。しかし、高知西高校の方は見てみると、ずっと全部の学年が埋まった状態で高校の段階では行くわけである。それで、新しい併設中学校が1年生から始まるわけだが、高知西高校で考えたときには、全くそこには犠牲が発生していない。完全に高知南中高校の方だけに犠牲が強いられている状態であることは明らかなことだと思う。その中であえて、高知南中高校の方は今校名にこだわっているのは、せめて校名ぐらいは高知西高校の方も譲歩せよと、私達の意見が通ってもいいのではないかとということでは根底にあるわけである。しかし、それに対してさえも、高知南中高校の校名を絶対残せと言っているわけではなく、全く新しい学校をつくるのであれば、新しい校名をつけてほしいと、言わば、高知西高校も高知南中高校も残らない、新しい校名としてつけてほしいと言っているわけである。しかし、今の時点で校名をどうするかさえ決めないという回答で終始しているところであるが、そうなる、これが一体本当に公平なのかということを感じてくるわけである。どう考えても新しい学校の校名をつくっていくということを決めて、具体的にどんな校名にするかということについては、これから検討していくということで行けば、高知西高校の方も一定数犠牲が発生するわけであるから、そこであえて、教育長として、そういう姿勢を示すべきではないかと。明らかに、こちら側に全部犠牲を強いている状態であるので、そこはやはり、その痛み、犠牲を強いられる側の心に対して、配慮する必要があるのではないかと感じているところである。

今までいろいろなやり取りをしていく中で、教育委員会の職員の態度でも、非常に腹が立ったところがあったりした。それはなぜかと言うと、先ほど言ったように、犠牲を強いられる側の痛み、心、そういった気持ちに寄り添うような姿勢が見えないところを感じたので、非常に憤りを感じたこともあった。そういう意味で、そういうことの無いように、ぜひ、痛みを感じている、先ほど校友会の会長も言ったように、自分の母校と言うことに対しての思い、心、気持ちというものは非常に重いわけであるから、そこは、貴重な意見を頂きましたというふうに、他の意見と同じような重みのとらえ方ではなく、本当に重い意見を頂いたという姿勢が教育長としても必要だろうと思うので、ぜひ、そういうことを考えてやっていただきたい。

教育長

姿勢の点について、個別に、失礼なことがあったとすれば謝りたいと思うが、ただ、我々としてはこの会に臨む姿勢としては、できるだけ真摯にご意見をうかがって、そのうかがったご意見に対して、我々として、教育委員の皆さんと一緒に、できるだけ実現できないかという形で検討させてきていただいた。ただ、結果としておっしゃるとおりの方向にならないものももちろんある

<p>国際教育振興会代表</p>	<p>が、我々としてはできるだけ真摯にご意見をうかがったうえで検討はさせていただきます。ご理解を頂きたいと思う。</p> <p>それから、その統合の仕方が公平性を欠くのではないかということであるが、この件については、両校でどちらが有利か、不利かというようなものではないのではないかと考えている。そもそも将来の高校の教育環境を充実していくためにどうあるべきかという観点で検討させてきていただいているつもりである。場所が高知西高校の今の場所になるということは津波等を考えたときに、そちらにならざるを得ないということもあるので、そういった点についてはぜひご理解を頂きたいし、校名等のことについては先ほど来ご説明させていただいているとおりである。</p> <p>2期生の母親であるが、それこそ大変な思いをして、一生懸命学校をどうしようかと思うぐらいにやって、今、学校へ行ってみれば、全国大会に多く出場し、学力テストも素晴らしい成績で、よくぞここまでやってくれたと本当に感謝しているのに、なぜ、また一から学校をつくる必要があるのか、それはずっと無くならない疑問である。どうしても統合という形になるのであれば、両校が交流するように、PTAも交流できるように、子ども達も授業などで交流できるような形を持って、ぶつかり合わないように一つの形になるようなこともしていかなければ溝が広がってしまう。また、校名を重視する気持ちは誰でもあるので、この件に関しては、教育委員会は凜とした態度を取らないといけなと思う。心のケアというのであれば両校の生徒達の交流とかもいろいろ考えて、少しでもつながりができるように、そういうふうなこと、何回も何回も取って行って、友達になれるように、違和感の無いようにしていただきたいと思う。</p>
<p>進取会代表</p>	<p>それではこれで、進取会、国際教育振興会もあわせて、意見を述べさせていただいたが、最後に、次世代を担うグローバル人材が、一番必要なのはブレない価値観を植え付けることではないかと思っている。教育委員会の方が、いろいろなことを研究されて、グローバル教育ということを前面に押し出した学校だと認識しているので、ぜひ良い学校、新しい学校をつくって行ってもらいたいと思う。</p> <p>今日はありがとうございました。</p>

○高知南中学校・高等学校関係者との意見交換

<p>保護者代表</p>	<p>すみません、本当に一言である、最後に。 今こういう形で我々、保護者会、それから校友会、進取会、国際教育振興会という形でいろいろな意見が出ている。我々も意見が対立するところもあるし、合意しているところもいろいろある。でも、これは今の思いである。ただ、新しい学校になるということで、関係者は新しい学校、その学校というのは前身は高知南中高校だよ、前身は高知西高校だよと言えるような学校、そういったものにしたいために、我々はここまで知恵を絞ってきた。単純にこれがほしい、あれがほしいと言っているわけではない。このことを考えてほしい。それとやはり子ども達の教育ということでぜひともお願いしたい。先ほど言われた、委員長の意見、ものすごく良かったと思う。ただ、既存のところに行くのではない、新たな学校に行くので、そのフォロープログラムというのはできるはずだと思う。それと教育長の言ったいろいろな対応についても、新たな学校に行くということで、とにかく、我々のこの意見というものがこの場で終わることなく、高知県として新たな中高一貫校をつくるという方向性は見えたとしても、より具体的な細かい内容についてはぜひとも慎重に検討していただきたいと思っている。ぜひともそれについては、一番は子ども達のために、よろしくお願いしたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>今日は本当に皆さん、ご熱心にご協議頂いた。たいへん貴重なご意見を頂いて、まことにありがとうございました。 そうした中でも、高知南中高校と高知西高校との統合による、新たな中高一貫教育校の設置について、私どもから説明させていただきました案について、十分腹に入ったということではないとは思っている。 また、今の、保護者代表からもご意見のあったような形で、こうしてもらいたいというご意見もあるということだと思っているが、新たな中高一貫教育校をつくること自体については一定のご理解も頂けたのではないかと受け止めさせていただいている。 これからのことであるが、我々としてはここまで一定の丁寧な議論ということで、努めさせてきていただいたと考えている。今後については、先ほどのご意見がある中でもお答えしたが、来年度の高校入試を決める時期の問題であるとか、あるいはご説明をしている、両校の教育環境の充実について、できるだけ早く決定をして、今後の志望者にPRもしていきたいという思いもある。ということで、これまで提案させていただいた内容をもとに、再編振興計画の案を固め、県民の皆様のご意見をうかがうパブリックコメントを行わせていただきたいと考えている。もちろん今日うかがったご意見については、我々としてもしっかり受け止めさせていただき、今後進めていく際も、十分、尊重させていただきたいと考えている。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>今日の回答はもらえないのか、今日返事いただいていない分については、お答えいただけないのか。</p>



保護者代表	今日の会、これで終わりということか。僕が言ったのは、検討の会をお願いしたいということである。
教育長	今日お答えさせていただいていないというのは。
保護者代表	人口減に対する実効性のお返事を頂いていない。
教育長	それは今お答えできるのではないと思うが。
保護者代表	まだ法律的な問題について専門家の方に聞きたいということについてもある。
保護者代表	今の発言、お答えできるということは、今回のこの会を持ってもう終了にしたいという意向なのか。
教育長	一切、協議の場を持たないということではない。ただ、先ほど申したように、我々としてもスケジュールとかもあるので、今後、パブリックコメントに移らせていただきたいということである。
保護者代表	方向性は決まったとしても、より、細かい内容についてはこれからまだ十分検討、もしくは議論の余地があるのではないか、十分煮詰まっていないのではないか。 であるなら、もう少しそれを話すべきではないか。方向性はとりあえず方向性として導き出したとしても、その方向性というのは新たに変わるかもしれない、それは分からない。そういう意味で言ったわけで、これで終わりという意味で言ったわけではない。
教育長	パブリックコメントについては、大きな方向性で出ささせていただくということであるので、細かな点についてはもちろん協議をする余地は当然あると思っている。
保護者代表	次に開く可能性はあるということで認識してよろしいか。
保護者代表	今日、いっぱい宿題があると思うが。
教育長	では、お答えさせていただいて、その結果でどうしてもということであれば、また案件とさせていただきたいと思うが。
保護者代表	ということは、今回出した質問に回答すれば協議は終わったということで、もうそれ以上やらないという意味か。
教育長	パブリックコメントに至るまでについては、今日で最終ということにさせていただきたいという趣旨である。その後、おっしゃるような細かい点についても、議論したいということであれば、それはまた検討したい。
保護者代表	まだ十分内容が固まってないと思う。その中で、そういう話が、今日、今、初めて聞いたが、そういう進め方で教育委員の皆さんも、周りの皆さんもよろしいのであろうか。
保護者代表	強行するということか、事務局案で。
教育長	ちょっと小休をさせていただきたい。教育委員の中で協議をさせていただく。
保護者代表	先ほど教育委員の方々の意見もうかがい、いろんな形で再度聞いて、今後進めていきたいと言っていたので、そういうことを含め私もお願いをしている。それであれば、はじめに、今回のこの12回で終わりだという報告は必要ではないか。お互いに検討しなくてはいけない内容があると、僕はこの場で今思っ

保護者代表	<p>いるのだが。</p> <p>今僕達の言った案については納得できないのか。どうしても、切り捨てるのか。僕達の言っていることを、取り上げてくれて、汲み取ってくれる案であれば全く問題無い。それで通していただいて。</p>
保護者代表	<p>汲み取って検討しなくてはいけないという形で教育長も言われてなかったのか、先ほど。</p>
保護者代表	<p>貴重な意見を頂いたというだけで、汲み取ってくれなかったら何もならない。今のままであれば、1月の終わりの状態と一緒にではないか。半年間、僕達は何をしてきたのか。</p>
保護者代表	<p>僕達が言っているのは、閉校がどうのこうのと、廃校がどうのこうのとこういう話ではなく、県から出されてきた意見をとにかく集約しようと。で、もう一回戻るが、1月には説明が無かった。2月にも説明が無かった。体制が変わり、教育長が変わり、全然話が無く、5月17日に初めてあった。そのときに我々が100に及ぶ項目を出した。それについての回答は後日でいいということで、それが2回目の6月にあった。それからその案を持って、やはり検討しなくてはいけないという話で進んできていると思う。それが3回目。そしてこれが今回、4回目なので、実際これからの内容だと僕は思うが、いかがか。</p> <p>せっかく先ほど委員長が言ったように、教員時代、そういういろいろな問題が起こったときの経験があるわけであるから、今回我々が出した意見に対してもそういった長年の素晴らしい教育実績の中で解決する方法というのは見つけることができるのではないか。それを教育委員の皆様で議論をしていただき、精査していただき、本当に下の学年が全くいないということのないような学校生活、子ども達の生活状況を作ることができないのか。僕はそれがどうしても、親として、大人として、先陣を切った人間として、してはいけないことだと思っている。</p>
教育長	<p>お話をいただいた。それでは、次回もう一回、会を持たせていただきたい。ただし、先ほど申しましたように、我々としての一定のスケジュールというものはあるので、次回までということにはさせていただきたいと思っている。</p>
保護者代表	<p>内容が決まらないというか、そういうふうなあやふやな時に、本当にそれで進んで良いのか。方向性は進んでも議論をする場というものはやはり必要ではないか。途中でその議論が変わったとしても、それはそれで仕方ないかもしれない。一番しなくてはいけないことは時間的スケジュールではなく、将来33年、34年に起こる、中学1年生、2年生、高校1年、2年生の子ども達、その世代の子ども達の現場の教育である。一生、その子が80年生きたら、1年間、もしくは2年間、自分達に後輩がいなかった、本当はいてもいい生活ができるかもしれなかった高校でできなかったという、人生の中でも、その1年と2年を作ってしまう。事故や災害によってなるのであれば、やむを得ないかもしれない。ただ、こういった状況の中で、皆さん大人達の中で、知恵を絞り、汗をかき、時間を費やして、一生懸命になって子ども達をなぜ守らないのか。</p>

委員長	いろいろこういう問題についてはなかなか完全に意見は一致をしない。基本的には将来の子どもにとってどうかという視点で、これは意見が一致しなくても教育委員会で判断しなくてはいけない問題だと思っている。
保護者代表	今の子どもは構わないのか。
委員長	今の子どもも含めてである。子ども達が非常に減っている状況の中で、縮小して統合せざるを得ないという現実があり、将来の高校教育の構想を立てている。そうせざるを得ない、嫌でもせざるを得ないわけであり、その時に当然プラスばかりではなくて、マイナスもたくさんある。しかし、そういうメリット、デメリットがある中で、子ども達の将来を考えた時どういう方向が良いのかということは、これは教育委員会が最終的な責任を持ってやらざるを得ない。これは、完全一致すれば一番良いわけで、そのための努力を今まで一生懸命してきている。皆さん方も努力してきて、我々も努力してきている。しかし、最終的にはやはり、一致しなくてもやらざるを得ない時期も当然来る。
保護者代表	一致しなくてもという話は分かるが、まだ33年には7年先がある。時間は十分あると思う。先ほど言われたように、本来最初に計画した中では、中学校の建設というのは33年からであった。それが30年に前倒しになっている。そういうことを考えると、最初の考え方で行けば、33年からが妥当ではないかということを考えれば、3年の余地はある。明日、明後日、来年度に統合するわけではない。7年後である。そこに入学する子達は小学校3年生であり、今の5年生が3年生になる。また、今の幼児を見据えた学校である。そういう中で、やはり、最大限の努力をする。これだからできないという方法がある、これだったらこうしようという見方で、教育を進めていく。どこまでできるか。どうしてもできなければ、それはもう、ごめんなさい。全員で、我々も謝る。生きていれば、その時の子ども達には頭を下げる。そういう思いで僕は今やっている。自分の子は、この35年では卒業している。にもかかわらず、ここまで思うのは、やはり小さい子ども達のためである。我々、彼らに頼っているので。それがなければ、高知県を出て行く。人のつながり、やさしさとか、思いやりとか、そういったもの、言っているではないか、大人達は。ぜひとも苦労しましょう。
事務局	これは教育委員協議会として会議をやっているのだから、最初に委員長の方からも、指名が無いものが発言をしないようにという話もあったと思うし、そういう（不規則な）発言は止めていただきたい。
保護者代表	分かった。
委員長	次回、もう一回会議を開くということで教育長がお答えした。
保護者代表	発言権が無いというのは、ここ（発言者席）に座っていないから発言がないということか。
事務局	指名されてからということである。
委員長	次回、最終的に詰めをしましょうというご提案をした。ぜひ、それでご協力をお願いしたい。

事務局	<p>質問に、十分お答えできていなかったとのことであるので、5月17日にも、ご説明をさせていただいたが、高知市内で言えば、10年後で304名の減少がある、と。それから、高知市及び周辺部で言えば、400数十名。そこについては、高知南高校は定員上240名というところであり、それが10年後に推計された場合も240名ということである。</p>
保護者代表 事務局	<p>もっと減る。 そういったところについては、当然のことながら、その状況を踏まえながら、その時期に定数の増減とか、若干の激変緩和的な対応はやっていくことにはなるかと思う。それから、普通科の場合であれば、クラスが1クラスずつ減っていくという状況になるが、産業系などの学科である場合、その1科1科の、生徒数は40名に満たない場合もある。</p>
保護者代表 事務局	<p>1クラスでもそっちは残すということか。 40人、35人でも結局1学科という形には結果的になるので、全体の10年後において、そういったところを見据えながら、推計も踏まえながらの対応ということになる。</p>
保護者代表	<p>少子化が急速に進んでいるわけだから、とても200人減じゃ無理だと思うので、統合したものの10年後に失敗だったということにならないことを本当に祈っている。もう皆さん、異動していないだろうし、誰がそのころ教育委員会にいるか分からないが、10年前に変なことをしたと言われたいような統合にしてもらいたい。</p>
委員長	<p>この件については、我々も内部で非常に厳しい議論をしている。せっかく実施したことが無効にならないように、しかもまた、この定員設定に関して、子ども達にとって非常に影響が大きいわけであるので、その誤りが無いような形は当然していきたいと思うし、これから中学校の学力がどのように向上するという推計とかも含めて今検討しており、だから提案している部分については間違いなく、確保ができるという見通しの下でご提案しているので、よろしくお願いしたい。 それではたいへん長時間にわたり、また予定時間をオーバーして司会の不手際で申し訳ない。 本当に貴重なご意見を頂いた。また今後とも、よろしくお願い申し上げます。どうもありがとうございました。</p>